

ATAC行事企画のご案内

第7回 社長懇話会を11月16日(水)、大阪府堺市の株式会社中村超硬にて開催の予定です。工場見学、社長講演、懇親会と、たいへん有意義で毎回好評をいただいている行事です。参加人数を限定しておりますので参加をご希望される社長又は経営者の方は下記の第7回社長懇話会ご案内送付申込書欄に必要事項を記入してFAXしてください。

第7回社長懇話会ご案内送付申込書 **FAX 06-6443-5319**

企業名	社長又は経営者名	
	担当者名	
所在地		
TEL	FAX	
E-mail		
今後、社長懇話会情報のご連絡を希望する場合(どちらかに✓してください)		
<input type="checkbox"/> FAX / <input type="checkbox"/> E-mail		

ATAC散歩道

愛・地球博(愛知万博)訪問の記

梅雨の中休みの好天の日に愛知万博を覗いてきました。前回の大阪万博(テーマ:人類の進歩と調和)は高度成長期の35年前の1970年でした。それから80年代にかけて世界のGNPの10%を占め、かつてない繁栄をしました。その当時は日本および日本人は自信にあふれ、輝いていました。丁度、司馬遼太郎の「坂上の雲」がベストセラーになっていた頃でもありました。その結果が6000万人超の入場者で会場が沸きかえていたことが思いだされます。

今回の愛知万博はテーマが「自然の叡智」であり、環境を重視した内容・運営になっています。会場は名古屋東部丘陵(海上の森)一帯で大阪万博と比べると比較的小ぶりになっています。全体が丘陵地であるため、その自然を生かした設営になっていて、小高い山や池、林や里山などをそのまま利用しています。したがって各パビリオンは設置場所が限られるため、外国8カ所、企業は2カ所のゾーンに分かれています。そのため移動距離が多く、また上がり下がりもあるため、ある人は「アイチ万博」でなく「アルク万博」や、と言っている人がいました。

今回の特徴の一つになっている「グローバル・ループ(空中回廊)」という会場をほぼ一周できる巨大な歩道橋のようなものが設置されています。これは回廊の下の林や里山などをそのままの姿で残したいという配慮であると思います。さらにこの回廊は全て鉄柱と鉄骨で構築され歩道のところは全部板張り、すなわちフローリングになっています。これなども後で解体し易いように、また環境を破壊しないようにコンクリートを可能な限り使わないという考えではないかと思えます。パビリオンは外国や国際機関の出展数は35年前の大阪万博の時は57でしたが、今回は非常に多く124カ国・機関が出展しています。35年の間にそれだけ国際化が進んだということでしょう。反対に企業の出展は大阪の時の27に対して僅かに9と大幅に減っています。ここ十数年は全ての企業がリストラに明け暮れ、今もその過程にあり当然の結果だと思えます。出展しているのは一部を除いて殆んどが元気のよい地元の企業です。愛知万博が決定したのは1997.6.12です、すなわち8年前です、この地区の企業の業績が今日のような姿になると誰が予想したのでしょうか。結果的には大変よかったのではないのでしょうか。

環境対策としては、会場内のゴミの収集は12分別するようにゴミ入れが用意されています。また、身障者や老人のために車椅子を沢山用意してあるのも特徴です。パビリオンによっては車椅子の方々を優先的に入場させるところもあるようです。いずれにしても外国のパビリオンは別として、企業の人気パビリオンへは2~数時間の待ち時間を覚悟する必要があります。なお、一カ月前から1人2つのパビリオンまで事前に予約できる方法があるので有効に利用されることをお勧めします。人気と噂されるパビリオンは色々ありますが個人個人によって興味が異なりますし、また、子供やお孫さんなどを同伴して行かれる場合もそれぞれの思いがありますので事前によく作戦を立てて行かれることがよいでしょう。

なお、忘れてはならないのは、暑さ対策、日除け対策です。

(藪野記)